

## 小学校に道徳科・英語科

道徳科は2018年度から実施(中学校は2019年度)  
英語科は2018年度より移行措置で2020年度完全実施

毎年夏の暑さが増しているように感じます。今年も暑い夏となりました。8月28日(月)から2学期が始まりますが、残暑の中、運動会の練習をすることになるかもしれません。熱中症対策を考えなくてはならないと思っています。ところで猛暑だった7月に意外な商品の売上げが伸びているらしいです。下痢止め薬の「正露丸」です。製造会社の広報担当者は「水分を取りすぎたり、クーラーをつけたまま寝たりすることで、胃腸に負担がかかっているのでは」と予想しています。子どもたちが夏休みに規則正しい生活ができ健康な体で学校に登校してくれることを祈っています。

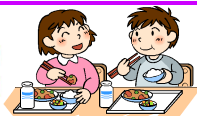
### 目指せ自己ベスト(水泳記録会)

校内水泳記録会(7/13)では、1年生から6年生まで全員がそれぞれ泳ぐ目標を決め、自分の記録を伸ばすよう頑張りました。自分の記録をさらに伸ばすのはとても苦しかったと思います。真庭水泳記録会(7/21)には、5年生と6年生を中心に参加しました。新庄村と真庭市の25校の小学校



が参加し50メートルプールで自己記録の更新を目指しました。美作水泳記録会(8/1)は、標準記録を超えていないと参加できません。新庄小学校からは女子50m自由形に2名(川上友帆・柴田望央)参加し記録を伸ばすことができました。

### 小中合同給食



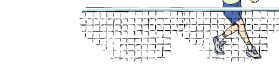
7月12日(水)に小中合同で給食を食べました。5つのたてわり班に分かれ、小学生と中学生が混ざり合って給食を食べました。給食のメニューは、中学校1年生のリクエスト献立で、チキンカツカレーでした。カレーは子どもたちの一番の人気メニューということもあって、和気あいあいと楽しくいただくことができました。2学期と3学期にも小中合同給食を行う計画をしています。



### 部活動体験



7月13日(木)の午後から5・6年生が部活動を体験しました。バドミントン、卓球、軟式テニスの3つの部活動に挑戦しました。中学生も丁寧に教えてくれました。夏休みにも部活動体験を計画しています。



#### ■道徳科について

「道徳」は1958年(昭和33年)に始まりました。しかし、これまでの道徳の時間は、いじめなどの現実の問題に対応できておらず、読み物を読んで感想を述べるだけで終わっているなどの課題がありました。教育再生実行会議の提言・中央教育審議会の答申を受け、学習指導要領等が一部改正されて2015年(平成27年)3月27日に告示されました。そして、「道徳科」が2018年4月(中学校は2019年4月)より完全実施されることになりました。

改正の具体的なポイントをまとめてみます。①目標を明確で理解しやすいものに改善する。②内容について、いじめ問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものに改善する。③問題解決的な学習や体験的な学習など質の高い多様な指導方法を展開する。④道徳科に検定教科書を導入する。⑤一人一人の良さを伸ばし、成長を促すための評価を充実する。そして、「主体的に考え、いろいろな人の考え方や感じ方と出会い交流し議論する」、「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育てていくということです。

しかし、授業で児童生徒の前に立つ教師にとっては大変なことです。どういった授業をすればよいか、どういった評価をすればよいか、一人の教師の変革だけでなく学校全体としてチームで取り組む必要があります。中学校とも協働し研修を重ねながら、そして、新庄っ子と一緒に教師もよりよい生き方を考え合おうとする道徳科の時間にしたいと思います。

#### ■英語科について

ほぼ10年ごとに改訂されます学習指導要領の今回の大きな目玉として、小学校5年生から英語科が実施されます。そして、現在5・6年生で行っている外国語活動が3・4年生に前倒しされます。来年度から移行期間に入り、3・4年生で年間15時間の外国語活動、5・6年生で年間50時間の英語科を実施しなければなりません。2020年度(平成32年度)から新学習指導要領が完全実施となり、外国語活動は年間35時間、英語科は年間70時間となります。

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題でした。小学校に外国語学習や英語科が前倒しされたのは、早期より外国語に慣れ親しみ、主体的に外国語学習に取り組む態度を養おうということです。

実施するに当たって、特に次の2点が大きな課題となっています。1つ目は、授業時数が増えることになり、現状の時間割の中にはゆとりがないことです。移行期間は総合的な学習の時間を充てることも可となっていますが、本格実施に当たっては週時間割のコマ数が増えることもやむを得ないかもしれません。2つ目は、小学校教師の英語に関する専門的な指導能力についてかなり厳しい状況にあることです。教師自身の自己研鑽はもちろんですが、ALTの支援やICT機器の活用をして工夫する必要があります。しかし、全てを完璧に教えようとするのではなく、教師も子どもたちと一緒に主体的・能動的に外国語を学ぶ姿勢で授業をすることが大切だと考えています。

#### ■通知票の変更について(来年度より)

道徳科や英語科は教科ですから、評価をしなくてはなりません。従って、現行の通知票は改訂し、道徳科や英語科の欄を加えることとなります。評価方法をどうするか具体的にはまだ決めていませんが、大きさを変えたり、ファイル形式にしたりなど様式が大きく変更になります。特に道徳科については子どもの道徳性が育まれていく評価をすることが大切だと考えますから表記の仕方にも工夫が必要です。今後、他校の情報も調べながら慎重に進めていきます。